

第6期 JSDA キャピタルマーケットフォーラム（第4回）の様について

2026年4月6日
日本証券業協会

<会合の概要>

2026年3月24日（火）、第6期 JSDA キャピタルマーケットフォーラム第4回会合を開催した。

今回の会合では、研究委員2名より研究状況の中間報告が行われ、研究テーマの背景やこれまでの研究で判明した事項、今後の課題等について説明がなされた。

発表者 船津 浩司 研究委員（同志社大学 法学部 教授）

テーマ：AI と金融規制

ディスカッサント：早稲田大学法学学術院 小出 篤 教授

発表者 篠 潤之介 研究委員（早稲田大学国際学術院 国際教養学部 准教授）

テーマ：解釈可能な機械学習モデルに関する新たな手法の金融データへの適用

ディスカッサント：神戸大学大学院 大坪 陽一 准教授



意見交換では、船津研究委員の中間報告に対して、ディスカッサントである小出教授をはじめ、各委員から「投資運用業者の運用権限の全部委託に関する既存の法規制の果たしている機能を再整理し、完全自動投資判断 AI において同機能をどのように確保すべきかを緻密に検討することで、既存の金融規制と AI を用いた金融サービスに対する規制との連続性をどこまで維持するかについて、大きな示唆を与える研究である」「継続的モニターのコストは手数料として投資家が負担することになるが、投資家保護とコストのバランスについて、どのように考えるか」「AI を用いた金融サービスに対する規制を検討する際には、今後より優れた AI が登場することを促す制度設計も含めて考えていただきたい」などの意見が寄せられ、活発な意見交換が行われた。また、篠研究委員の中間報告に対しては、ディスカッサントである大坪准教授をはじめ、各委員から「解釈可能な機械学習モデルの主流となっている SHAP の代替的手法として、残余均等配分や逆残余均等配分を提案し、計算コストを大幅に削減された点は大きな貢献である」「変数間の interaction も重要であり、その貢献度の数値化についても、協力ゲームのアイデアで解決できないか」「提案された代替的手法を広めるためには、国内のデータだけでなく、グローバルなデータも用いて検証することが有益ではないか」などの意見が寄せられ、活発な意見交換が行われた。

今後、両研究委員は、本会合における意見交換を踏まえ、論文完成に向けて引き続き研究を進めていく予定である。

以上